観光は平和へのパスポート
国連世界観光年宣言

JHSたより

平成29年8月10日（15,000部）発行
2017.8 Vol.60

学校法人日本ホテル学院
発行所／専門学校日本ホテルスクール
一般財団法人 日本ホテル教育センター
〒164-0003東京都中野区東中野3丁目15番14号 TEL.03-3360-8231(代)
https://www.jhs.ac.jp http://www.jec-jp.org/ FAX.03-3360-8584

単位互換、交換留学に新たな試み

第一期生に英語専攻科の川田海生さん
フィリピンのパーペチュアル・ヘルプ大学と連携

UPH大学の学生と交流する川田海生さん（後列右）

2017年から交換留学への新たな試みとして、フィリピンのパーペチュアル・ヘルプ大学（＝UPH）との交換留学制度を開始しました。これは、両校間で相互に学生を送り合うもので、初年度は、5月22日、川田海生さんがUPH・ホスピタリティ・マネジメント＆ツーリズム学部へ入学しました。またUPHからは、人選が済み次第、来日、英語専攻科で学ぶ予定です。

UPHとは、2012年に単位交換による3年次への編入学、卒業時に学士号取得を基本に協定調印、そして2013年から、本校1年次の海外研修旅行の実施に際し、過去4年間継続して、毎年平均437名、累計1,748名の学生を同大学に送り、両校の教職員および学生間の相互交流を図ってきました。これまでの学生の満足度調査では、両校の学生間で、毎年90点以上の好評結果であったため、相互の編入学実現に向けて、新たな試みへと踏み切ったものです。

実際に大学との交換留学には、カリキュラム上の違い、英語での授業、生活環境の違いなど難点が伴いますが、両校の共通点や特色を生かし合い、問題点を解決し、有効な体制を相互に模索していく予定です。英語の授業に対応できるTOEFL 550点以上が基本条件、従って、本校の80％以上を英語で授業している英語専攻科の学生、川田海生さんが推薦されて留学へ、UPHの学生は英語専攻科で学ぶことになります。今回の交換留学では、特別な配慮として、学費が相互に免除されています。

なお、UPH大学は、1975年マニラ郊外のラスピニャス市で発足、前身の看護学校から通算して45年以上の歴史を持つ、小、中、高一貫の総合私立大学です。同市のメインキャンパス以外に、モリノ、カランバ、ラグナ、リパ、ピニアン、GMA、マニラ、パンガシナン、イザベラに合計8キャンパスを有し、3大学病院をはじめ、70以上の学科、約4千人の教職員および約5万人の学生が学ぶ、南メトロマニラの最大規模の大学です。また、UPH大学は、単位互換による編入学先として、ポールスミス大学（米）、グリオンホテル学校（スイス）、ザ・ホテルスクール（豪）、シラー国際大学（米）、サキション大学（オランダ）についで、6番目の提携校です。

留学生11か国23名が入学 留学生比率4.4%

校長　石塚　勉

2008年から開始した日本政府の「留学生30万人計画」、これは、留学生数を先進諸国の受入水準である全学生数対留学生の比率を約10%、即ち全学生数約300万人と想定、その約10%＝30万人を目標とし、日本全体のグローバル化に対応した計画の一環としてスタート、2015年に20万人を突破し、目下、目標への途上にあります。

本校では、1974年から過去44年間に32か国、私費及び国費留学生を含め413名（2016年までは卒業生数）を受け入れ、現在、中国、韓国、台湾、マレーシア、タイ、ベトナム、ペルー、ミャンマー、イタリア、スリランカ、ネパールの11か国、1年生及び2年生を合わせて40名の留学生が在籍し、日本人対留学生比率は4.4%で、まだ政府目標10%には満たない状態にあります。

留学生数は全体的に増加傾向にありますが、本校では、入学目的、日本語能力、経済力、人物等を吟味して入学許可をしていますので、大勢ではありません。いち早く学校環境を理解し、それぞれの留学目的を達成し、母国と日本の架け橋となれるように、卒業に向けて頑張って欲しいと思います。

今年の新入留学生：石塚勉校長（中央）を囲んで

2017年度　入学式典を挙行
～ 413名（留学生23名）が入学 ～

2017年度の入学式を4月14日、なかのZERO大ホールで挙行しました。

当日はご来賓として、観光関係団体、企業および教育関係者で計24名にご臨席賜りました。石塚勉校長の式辞に続き、一般社団法人日本ホテル協会 専務理事 福内直之様より「今後、2019年のラグビーワールドカップや2020年の東京オリンピックなど訪日外国人数の大幅な増加が見込まれます。宿泊施設にとって重要なものはハードウエア（設備）、ソフトウエア（組織）、ヒューマンウエア（働く人々）です。特にヒューマンウエアは、お客様をおもてなしする上で最も重要な要素となります。今後、若いみなさんのご活躍を大いに期待しています。」と激励の言葉を頂戴いたしました。

1年生担任紹介

2017年度　1年生担任			
A	上野　真志	F	江口　幸
B	井上　貴彦	L	中山　万作
C	小島　和子	G	島田　雅輝
D	井上　正子	H	井上　浩
E	中島宣由紀	J	神保江津子

担任の紹介

ご来賓祝辞　福内直之様

新入生代表
夜間部ホテル科　髙﨑美優さん

2017年度　留学生活がスタート
～ オーストラリア・メルボルン20名、カナダ・バンクーバー 45名 ～

成田空港にて　激励に駆け付けたクラスメートと

2017年度加豪留学学生65名が4月8日留学先に向けて出国しました。成田空港には、家族やたくさんの友人、クラスメート、そして先生方が激励に駆けつけ、異国の地で生活を送る学生にエールを送っていました。

カナダ留学、オーストラリア留学ともに到着後すぐにホームステイ先の家族と対面し、翌日からオリエンテーションが開始されます。オリエンテーションウィーク中には、クラス分けのテストが実施され、その後本格的に始まるESL（English as a Second Language）クラス、ELICOS（English Language Intensive Courses for Overseas Students）コース向けて徐々に準備をしていきます。

英語力の向上のみならず日本から離れた異国の地で、さまざまな人と触れ合い、さまざまな経験を通して、大きく成長し、日本に戻ってくることを楽しみにしています。

カナダ・オーストラリア　留学制度

本校の留学制度は昼間部・夜間部、全科共通で希望者は誰でも留学できる制度です。

留学先は、カナダ・バンクーバーまたはオーストラリア・メルボルンから選択可能。両校とも将来、ホテルなどのホスピタリティ産業で活躍できることを目的に提携しています。カリキュラムの内容は、英語力の向上と海外のホテル事情の理解度を深めるプログラムとなっています。

オリエンテーション・メルボルンシティーツアー

ホストファミリーと

熱心にメモをとる学生

ホテルスクール留学担当先生方と両校の先生方

カナダ・オーストラリア留学説明会を開催

5月27日、2018年加豪（カナダ・オーストラリア）留学制度説明会を行いました。

カナダ留学先である、カナダのダグラスカレッジからホスピタリティマネジメント責任者Mark Elliott先生とGlobal Engagement, Director, Sandra Schinnerl先生、オーストラリアのホームズグレンからは、留学プログラムディレクターRyoko Winstanley先生とコーディネーターAi Lin Bhugun先生の4名が来校、10ヶ月の留学プログラム内容や年間スケジュール、オリエンテーション、企業研修、アクティビティーについて詳しく説明していただき、さらにホームステイファミリーとのすごし方、Japanフェスタでの活躍やボランティア活動の様子など伝えていただきました。

また、2016年度留学を経験した先輩方の体験談があり、先輩方からは留学の楽しさや大変さや留学をしなければ経験できない話などしていただきました。今後留学希望の学生達は、2018年4月出発に向けて基礎英語力の向上、海外での生活の仕方など様々な準備を行っていきます。

1年生恒例行事　「ステイマナー宿泊研修」「ボウリング大会」を実施

ステイマナー宿泊研修
～ 本物のサービスを体験 ～

昼・夜間部1年生を対象とした「ステイマナー宿泊研修」を、2017年6月6日から9日の期間、昼間部は2泊3日で横浜ベイホテル東急、夜間部は1泊2日でホテルマウント富士、ハイランドリゾートホテル&スパにて、ホテル側の全面的なご協力のもと実施致しました。

ホテルスタッフの指導による料理サービス演習

チェックイン体験

この宿泊研修では、お客様の立場でホテルを利用し、施設の雰囲気を感じるとともに、スタッフの立場からも業務手順や臨場感を体験することで、より現実的なホテル・ブライダル・レストランの仕事・職業観を育成することを目的としています。

学生が役割を担う結婚模擬披露宴

ベッドメイキング研修

ボウリング大会
～ クラスの親睦を深める ～

石塚校長の始球式

学校行事である1年生対象のボウリング大会を4月28日、品川プリンスホテルで開催致しました。

午前、午後にわかれ昼間部、夜間部合同で行い親睦を深めつつ、個人賞、クラス賞を目指してボウリングを楽しみ、クラスの親睦を深めました。

午後の部　クラス優勝！

ホテルマーケティング　特別授業を実施
～ ザ・リッツ・カールトン東京　鈴木謙次郎氏を講師に迎え ～

鈴木謙次郎氏

前期は昼間部ホテル科・英語専攻科2年生を対象としたホテルマーケティングの授業を、後期は昼間部1年生全員に対しホテル概論、及びザ・リッツ・カールトンについての講義を行います。

初日となる5月8日は、副総支配人 セールス&マーケティング 鈴木謙次郎様 に講義していただきました。

ザ・リッツ・カールトンは従業員に対し何を求めているか、お客様に対しどのような気持ちでどのように接しているかなど全般的な話から、鈴木氏ご自身の経験談、またラグジュアリーホテルの特徴など話していただきました。学生達は、ザ・リッツ・カールトンの特徴などを熱心に学んでいました。

1年生対象「防災体験」」を実施
～ 東京消防庁池袋都民防災教育センター ～

消火器を使っての消火体験

ホテルやブライダル等の接客業のプロになるためには、大切な「お客様の安全を守る方法」を学ぶ必要があります。日本ホテルスクールでは、毎年、1年生を対象とした防災体験実習を実施しています。 学生はインストラクターのもとで実際に消火器を利用し、本物さながらの炎に向かっての消火訓練や震度７の揺れを体験、また実際に煙の中で出口を探しながら避難を行うシミュレーションなどを経験しました。

AEDを利用し心肺蘇生法の講習

震度7の揺れを体験

外国人留学生「特別講座」を実施
～ 企業実習開始に向け ～

実習特別講座の様子

7月より開始された企業実習に先立ち、外国人留学生を対象に実習特別講座を開催しています。

この「特別講座」は文化、母国語の違いから、日本人学生とは異なる視点での支援の必要性を背景に、外国人留学生を対象として開催しているものです。この講座では、実習への取り組み方、挨拶や自己紹介の仕方、電話の掛け方などを学びます。

この講座を通して少しでも実習への不安を払拭してもらうのが目的です。実りある実習になるように実習担当教職員が一丸となってサポートしていきます。

UPH大学との交換留学スタート
～5月より川田さんが留学生活をスタート～

交換留学生第1号として昼間部英語専攻科　川田海生さんが5月22日よりフィリピン、University of Perpetual Help（UPH）で留学生活をスタートしました。フィリピン到着後は、家庭教師を付けて英語の基礎固めをしながら実際の大学の授業を受講していきます。

UPHでは、生活に必要な英語運用能力を高めるのはもちろんのこと、観光学などの専門的な分野を学んでいきます。生まれ育った文化環境が異なる場所での生活です。来年2年生として復学するころには、一回りも二回りも成長した姿が見られるのではないでしょうか。

学友に誕生日を祝ってもらう
中央：川田さん

フィリピンホテル研修制度

多くのホテル企業が進出し、経済発展目覚ましいフィリピンにある「ザ・ベルビューホテル＆リゾーツ」のマネジメントプログラムです。

研修場所は、首都マニラ「ベルビューマニラ」で6か月間のシティホテル研修、ボホール島にある「ベルビューリゾート」で6か月間のリゾートホテル研修をローテーションで行うことを特長としています。1年間でシティホテルとリゾートホテルの経験をできるのが魅力です。

海外ホテル研修生派遣先　関係者来校
～THE BELLEVUE HOTELS & RESORTS～

前列左から：一ノ宮由美さん、安澤和哉さん、
後列左から：武内先生、江口先生、石塚校長

海外ホテル研修生派遣先であるTHE BELLEVUE HOTELS & RESORTSの日本人営業マネージャー・一ノ宮由美さんと本校の卒業生で同ホテル研修生制度第1期生でもある安澤和哉さん（2014年卒業）が6月28日に 来校しました。

一ノ宮さん、安澤さんからは、現在の研修生の様子や活躍など報告していただきました。また、同ホテルは12月から2月にかけて行われる昼夜間部1年生海外研修旅行宿泊先でもあるため、今年度宿泊するにあたり必要な準備、昨年利用しての改善点など様々な観点から意見を交換しました。

3年目である安澤さんは、日本人セールスとして現地でも多くの顧客を持ちながら活躍しているそうです。

意見交換の様子

第46回スコール・クラブ　アジア大会　バーレン王国マナマ市のザ・ガルフホテルにて開催
～役員会及び総会において、石塚勉校長が二期目のアジア地区副会長に選任される～

5月11日～15日、観光業界の世界的な交流組織であるSkal Club（スコールクラブ）は、アジア地区役員会及び第46回スコールクラブ・アジア大会をバーレン王国にて開催しました。この大会には20か国から125名が参加し、総会、セミナー、見学会、夕食会等々が開催され、役員会及び総会において、本校の石塚勉校長が、二期目のアジア地区副会長に選任されました。

2017年5月現在、スコールクラブは、スペインのトリモリノスに本部を置き、84カ国に359クラブ、約14300名の会員を有し、世界最古かつ世界最大の観光業界の幹部からなる国際民間組織です。日本では、東京、大阪、名古屋にスコールクラブがあり、約180名の会員がいます。アジア地区では、40クラブ、約2400名が会員。各クラブ、各地域で定例会が開催され、情報交換、ネットワーキングが行われています。

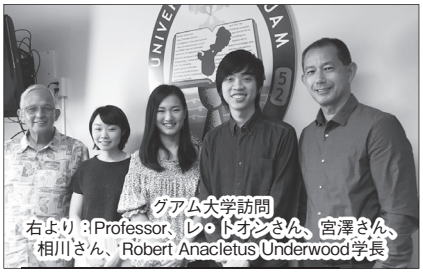
本校の英語専攻科の学生は、Skal Club（スコールクラブ）の青年組織にあたるYoung Skal（ヤングスコール）に所属しており、海外の会員との交流も行っております。

ヤングスコールクラブジャパンへの感謝として
会長旗を受領する石塚校長

左から開会式に臨むムハメッド・ブジジ バーレン会長、セイク・カリド長官
デイビッド・フィッシャー：本部会長、ロバート・ソーン：アジア会長

スコールクラブ アジア地区役員会：12名（左から5番目、石塚校長）

YSCJメンバー　グアムでSKal Clubメンバーと交流


グアム大学訪問
右より：Professor、レ・トオンさん、宮澤さん、
相川さん、Robert Anacletus Underwood学長

Young Skal Club Japan メンバー　宮澤彩さん、レ・トオンさん、相川果穂さんの3名 がSkal International Asia前会長Gerry Perez氏とグアム大学准教授Karri T. Perez夫人からの招待を受け、3月1日～4日にグアムを訪問しました。

現地では、Young Skal Club Guamメンバーとの交流やグアム政府観光局の訪問、Sheraton Laguna Guam Resortのホテル見学ツアーを行い、グアム大学でゲストスピーカーとして日本の就職活動状況や本校のJ-netシステムの特徴など話しました。講義を聴いていた学生達は、J-netシステムや日本ホテルスクールが学生達に行っている就職支援について強い関心を持つとともに手厚い支援に驚いていました。

～JHS同窓会便り～

第47回 JHS同窓大学を開催
～ ANAクラウンプラザホテル福岡 ～

第47回 JHS同窓大学・福岡　参加者集合写真

第47回JHS同窓大学を九州支部の協力の下、3月11日～13日にANAクラウンプラザホテル福岡で開催しました。

JHS同窓大学は学校および同窓生の相互交流により、相互の絆を強く結ぶ目的で、毎年2回ずつ23年間、継続実施しているものです。

東京本部からは中島同窓会長をはじめ幹部8名が参加、九州支部からは金森啓示支部長をはじめ瀬戸恵司副支部長、吉村元志副支部長、卒業生の上田修三氏（1974年卒／アスタスク株式会社取締役会長）、本村敬造氏（1976年卒／博多サンヒルズホテル）、安永徹氏（1983年卒／楠水閣代表取締役社長）、岸本保孝氏（1990年卒／ガーデンテラス長崎ホテル&リゾート料飲課マネージャー）、総勢14名の方々に参加いただきました。

勉強会では、学長役に金森啓示同窓会九州支部長（1978年卒/ホテルニューオータニ福岡副支配人）、教授役に原めぐみ氏（1993年卒/ANAクラウンプラザホテル総支配人）が担当、「九州の観光事情について」、「IHG・ANAホテルズグループジャパン」の講話をいただき、石塚校長から学校の近況報告、意見交換等々が行われました。懇親会で同ホテルが誇る中国料理を堪能した後、「終了証」が授与されました。

勉強会の様子

修了証書授与

2017年度　JHS同窓会幹部会議を開催
～ 今後の同窓会活動の方向性を確認 ～

2017年度専門学校日本ホテルスクール同窓会幹部会議を6月16日に開催し、同窓会長、副会長、事務局長、監事を含む12人が出席しました。

前列左から、山田顧問、田中副会長、中島会長、赤澤副会長
後列左から、石塚特別顧問、下田事務局長、川上事務局員、菊野監事、
寶蔵寺監事、石塚崇事務局員、川辺副会長

今回の議題は、①2016年度事業報告・収支報告、②2017年度事業計画案・収支予算案、③会計監査、④2017年度同窓会事務局改選について、⑤同窓会活動計画、⑥JHS同窓会理事会、⑦今後の同窓会関連日程について、など短い時間でしたが出席された役員の皆様からは、活発なご意見をいただきました。

事務局改選では、事務局長の黒須健二朗氏が退任、後任として下田憲司氏が事務局長として選任されました。

新体制の下同窓会の活性化を図り、より一層同窓会活動の充実のため役員、事務局一同努力して参ります。

■同窓会に関するお問い合わせ
同窓会事務局　TEL：03-3360-8231　FAX：03-3360-8584

第23回JHSソムリエクラブを開催
～ オテル・ドゥ・ミクニにて ～

第23回JHSソムリエクラブの定例会を3月1日に東京・四ツ谷、迎賓館近くの静かな住宅街に佇む一軒家レストラン「オテル・ドゥ・ミクニ」で開催しました。

定例会では、ザ・クレッセント総支配人 畑山正治クラブ会長（1994年卒）より挨拶、そして選定いただいたワインの説明に続き、三國清三シェフより料理をご紹介いただきました。また、副支配人 黒田幸雄さん（1981年卒）からもレストランの説明をしていただき、交流を深めました。

年代は様々ですが、ソムリエクラブは同窓生がワインや食事を通して交流できるため、よい情報交換の場になると思います。

今回はトゥールダルジャン、メゾン・エメ・ヴィベール、ケンゾーエステイトワイナリーや各ホテルからマネジャーやソムリエが参加しました。

畑山正治クラブ会長

定例会の様子

参加者とレストラン前で記念撮影

三國清三シェフの料理説明

■ソムリエクラブに関するお問い合わせ
担当：川上　TEL：03-3360-8231
kawakami@jhs.ac.jp

財団ニュース

2017年度ホテル産業経営塾・MICE塾の合同入塾式を挙行
～第17期ホテル産業経営塾・第7期MICE（マイス）塾～

第17期ホテル産業経営塾・第7期マイス塾
入塾生の皆様と関係者

5月12日、一般財団法人日本ホテル教育センター主催第17期ホテル産業経営塾・第7期MICE（マイス）塾の【合同入塾式及びオリエンテーション】を執り行いました。

ホテル塾より田中勝名誉塾長・藤崎斉副塾長、マイス塾より川島久男塾長、徳永清久副塾長、浅井久乃特別顧問が出席。また、来賓として南安氏（株式会社横浜ロイヤルパークホテル専務取締役総支配人）をお招きし、祝辞を頂戴いたしました。

塾生の皆様は、来年3月23日の卒塾式に向けて、8月を除く隔週金曜日午後、全16回の講義を受講されます。

ホテル産業経営塾（ホテル塾）

もはや“過去に支配的であったホテル経営・運営の仕組み”でホテルが抱える課題を解決できなくなっている今日、ホテル塾ではグローバルに日々進化している新しいマネジメント手法を吸収し、各種課題を討議することにより、実戦に適用し、結果を残すことが出来るホテルマン・ウーマンの育成を目指しています。

MICE塾（マイス塾）

塾長　川島 久男氏
VISIT JAPAN 大使

ホテル業界を中心に、宿泊産業及びコンベンション業界の皆様を対象とした、専門的知識及び実践的スキルを兼ね備えたグローバルなマイス人材を育成するマネジメントスクールです。

マイスの本質・仕組みを理解し、すぐに役立つ講座を実現しています。

ホテル塾・マイス塾合同卒塾式を挙行
～ホテル塾20名、マイス塾13名、合計33名が卒塾～

3月24日、専門学校日本ホテルスクール 2階宴集会教室において、一般財団法人日本ホテル教育センターが主催する「第16期ホテル産業経営塾（ホテル塾）」と「第6期MICE塾（マイス塾）」の合同卒塾式が執り行われ、ホテル塾20名、マイス塾13名、合計33名が卒塾。延べ卒塾人数は、ホテル塾348名、マイス塾64名、合計412名となりました。

ホテル産業経営塾　卒塾生

マイス塾　卒塾生

■ホテル産業経営塾・MICE塾に関するお問い合わせ
事業本部　浅山恵一　asayama@jec-jp.org　TEL：03-3367-5663

日本旅館国際女将会 通常総会を開催
～ホテル雅叙園東京にて～

日本旅館国際女将会通常総会・懇親会が6月14日にホテル雅叙園東京にて開催され、会員及び関係者29名が参加しました。

総会では、2016年度事業報告、決算報告、2017年度事業計画、収支予算計画の承認がなされ、総会終了後は、宿泊施設活性化機構の伊藤泰斗氏を講師に招き、「宿泊施設の『なぜ?』と未来予想図～付加価値は本当はどこに?」の演題で勉強会を実施しました。伊藤氏は「地方は、もう製造業などの既存産業には頼れない。地方創生には観光産業しか残れない」と述べ宿泊業を中核とした観光産業の地方創生における役割の重要性を強調し、地産地消の付加価値で、高稼働率を誇る地方旅館の事例などを紹介しました。

伊藤泰斗氏による講演

後列右から二人目：女将会会長　長坂氏
（下呂観光ホテル　しょうげつ）

トピックス

イタリアで和食検定試験に向けて勉強会を開催

和食検定入門編テキストを使用しての和食文化を学ぶ教室がイタリアでスタートしました。イタリアでも和食文化への興味関心は高く、ミラノで和食の正しい知識を広げていく活動が進められています。

受講者は10月の本試験に向けて猛勉強中とのことです。

イタリアでの
勉強会風景

編集責任者：石塚　勉
編 集 担 当：黒沢由美子
連　絡　先：03－3360－8231　kurosawa@jhs.ac.jp